

チャレンジ！野菜づくり

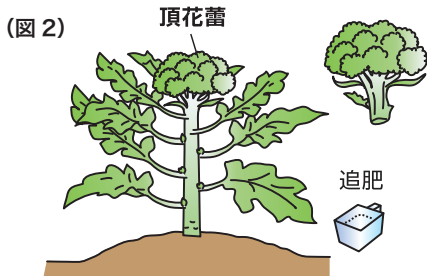
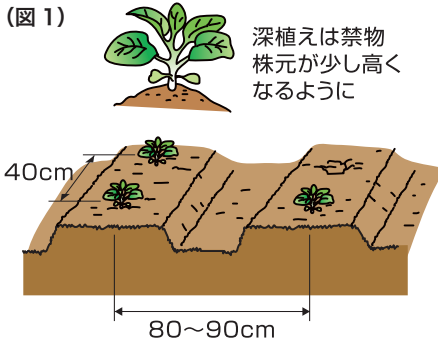


秋から春先まで、新鮮な味と栄養価が魅力のブロッコリー

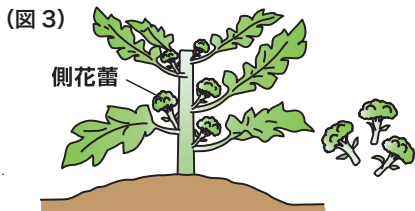
ブロッコリーは、抗がん作用が高いと注目される野菜です。カロテンとビタミンCが豊富で、免疫力アップや抗ストレス効果も。カリウム、鉄、クロムなどのミネラルも含まれています。

家庭菜園で秋から早春まで長く取り続けるには、品種選びが大切です。頂花蕾（ちゅうかさい）だけでなく、側花蕾（そくかさい）も取れる「頂花蕾側花蕾兼用」品種がおすすめです。

種まきの適期は7月中旬です。育苗期は高温期に当たりますが、秋の生育適温下で最大成長するので育てやすいのです。頂花蕾は10月下旬、側花蕾は10月下旬から3月ころまで長期間収穫できます。



株の周りに追肥して勢いをつけ、良い側花蕾を出させる



小さいがまとめて使えば味に遜色はない

保水力のある有機質に富む土壌を好むので、植え付ける畑には少なくて半月ぐらい前に、植え敵（うゑかた）よ。

根は湿害に弱く、秋の多雨による病害の発生の恐れがあるので、株元が低くならないよう、特に多雨後の排水に注意してください。

茎の太さの割に草丈が高くなるので、風当りの強い所では小支柱を立てて転倒を防止しましょう。

頂花蕾は径12〜13cmぐらいで収穫します。茎を長く付け過ぎると側花蕾の数が減るので、短く切り取ります。側花蕾は大きくはなりません。径4〜5cmほどで収穫します。いずれも蕾（つぼみ）が大きく膨らむと品質を損ねますので、緑が濃く花蕾が締まっているうちに収穫します（図3）。

アブラナ科の野菜は、苗のうちからアブラムシ、コナガアトムシや黒斑病、軟腐病などにやられるので、早期に見、適農薬を散布して防ぎましょう。

育苗は128穴のセルトレイ、少ない本数で良ければ3号ポリ鉢に3〜4粒まきとし、育つにつれて逐次間引きし、1本立てにします。

セル育苗では本葉3〜4枚、鉢育苗ではやや大きく本葉5枚ぐらいの苗に仕上げて本畑に植え付けます（図1）。育苗期間は暑い盛りなので、苗はできるだけ風通しの良い、涼しい場所を選び、強光時にはよしず、遮光ネットなどで覆い、灌水は朝夕にたっぷり与えるなど、常に目配りし、入念に管理しましょう。

の中央部に、くわ幅10〜12cmの溝を掘り、良質の堆肥と油かす、化成肥料を長さ1m当たり堆肥5〜7握り、油かす大さじ7杯、化成肥料同5杯ぐらいを施します。成長が盛んになったら月2回ぐらい化成肥料を1株当たり大さじ1杯ぐらい追肥します。頂花蕾を収穫したときには多めに追肥し、側花蕾の発達を促します（図2）。

肥料・農薬のご紹介

滋賀県専用!



(混合堆肥複合肥料)

全農とのコラボ

「地元応援キャンペーン」

Ecolett 288ご購入の方に抽選で

近江牛5000円相当

プレゼント

(県内30名様平成29年10月末まで)

法律が改正され、たい肥と普通肥料を混合造粒した肥料の販売が可能になりました。そこで誕生したのが「Ecolett」です。

- 低コスト肥料
- 土づくり+肥料効果
- 粒状なので散布もラクラク
- 製造時の火力乾燥により、雑草種子や病原菌などの混入の心配がなく、安心・安全

【成分】

12 (チッソ)・8 (リンサン)・

8 (カリ)・2 (苦土)・

0.4 (マンガン)・0.2 (ホウ素)

約50%が天然由来

※折込みの「秋冬野菜用資材申込書」でお申込みください。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。